

2020年度 特別研究推進費実績報告書

2021年 3月 31日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 大学院マネジメント研究科・教授
(氏名) 松田 憲

2020年度に交付を受けた特別研究推進費に係る研究実績について、次のとおり報告します。

研究課題名	他者の存在が選択のオーバーロード現象に及ぼす影響					
実施内容・研究成果の要旨 (概要書を別途添付)	<p>本研究は、他者の存在が選択のオーバーロード現象の生起に及ぼす影響について検討することを目的とした。当初の実験計画では選択時の待機列の人数(実験1)や他者の役割(実験2)を操作する予定であったが、コロナ禍のためにそのような条件設定での実験遂行が不可能となったために、実験1ではネットショッピングにおける選択時の同時選択者の人数を操作し、実験2では選択目的(自分用、他者用)を操作した。</p> <p>実験1ではネットショッピングにおける商品選択時に、同時に選択を行っている他者の存在を示すことによって実験参加者に焦燥感を非明示的に与えることで、選択のオーバーロード現象が生起するかを検討した。実験では選択肢に風景画像を用い、12枚の画像選択時の同時接続者の人数(0人、1人、10人)を操作し、48名の参加者には選択後にその選択への満足度と後悔度の6段階評定とSTAI(Spielberger et al. 1970) 40尺度への評定を求めた。参加者を状態不安と特性不安のそれぞれの評定値に応じて高中低の3群に分割したところ、状態不安中群の参加者では同時接続者の人数の増加に応じて選択への満足度の低下と後悔度の上昇が見られた。特性不安では群間に差異は見られなかった。</p> <p>実験2では選択肢にスイーツ画像を用い、全国のコンビニで購入可能な商品と東京限定商品を用いて希少性を操作した。また、選択目的を自分用と友人用の2水準で操作した。実験1とは異なる48名の参加者には、4種類ないし12種類からの欲しい商品上位3位までの順位付けを行ってもらい、選択結果への満足度と後悔度、再選択欲求の評定を7段階で求めた。実験の結果、選択肢の多い方が少ない場合よりも、対象や購入場所の条件含めて、後悔度や再選択欲求は高かったことから、オーバーロード現象が生起したといえる。また、自分用の選択を行う場合は、友人用と比較して、選択肢が多いときに希少性の効果がはたらき、近所のコンビニよりも東京で購入する方がより選択結果への後悔が高まり、選び直したくなるという結果となった。</p>					
	合計	使用内訳(単位:円)				
交付決定額	597,820	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
支出額	596,938	421,740	175,198			
執行残額	882					
共同研究者	所属・職名	氏名		役割分担等		
	広島大学・准教授	有賀 敦紀		計画立案、本実験		